

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育心理学	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月・2
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	206教室
学修分野			
授業目的 ※	心身の発達及び学習の過程について、総合的な子ども理解(保育に関する知識・保育技術)を基本とし、各発達段階における心理的特性を踏まえた支援の在り方を学ぶとともに保育現場でのコミュニケーションや課題解決の能力(コミュニケーションスキル・チームワーク・課題解決力)を身につける。		
到達目標	<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 <p>【幼稚園教諭、公認心理師(臨床心理士)として子どもの教育や臨床の実務経験を有する教員が子どもの発達や効果的な支援の仕方について指導する。】</p>		
授業内容 授業形態 ※	乳幼児の発達を理解し、その理論と幼稚園での実践を通して身に着けた保育技術との循環を図ることができるようにする。具体的な保育場面を想定し、保育者のかかわりや言葉掛けの配慮について解説する。またそれらの学びをより深めるため、関連したワーク(ディスカッション、ロールプレイ)を行う。		
評価方法 ※	試験(70%) 提出課題のワークシート(ふりかえりと課題)(30%)		
評価基準			
テキスト	松本峰雄監修 伊藤雄一郎/小山朝子/佐藤信雄/澁谷美枝子/増南太志/村松良太著「子どもの理解と援助 演習ブック」ミネルヴァ書房		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	保育内容の指導法(健康)	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月2
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	2Bクラス教室
学修分野			
授業目的 ※	保育内容の指導法「健康」では、本学のDPIに示された建学の精神「敬天愛人」の精神と保育者として、領域「健康」の側面から子どもや保護者を援助する方法をはじめ、総合的な子ども理解(保育に関する知識)を深め、コミュニケーションや問題解決の能力(コミュニケーションスキル)や(課題解決力)を身につけ、使命感(社会的責任)を備えた教育者・保育者育成を目指す。		
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、「健康」領域のねらいと内容をふまえ、乳幼児が遊びや生活、経験を通して健康で安全な生活を身に付ける。また見通しを持って行動できるようになるための情報機器の利用を含めた保育者の具体的な援助方法について習得する。		
授業内容 授業形態 ※	乳幼児の健康と安全の観点から各年齢に合わせて、それぞれの段階で保育者がどのような援助を行えばよいかを講義とワークを組み合わせた授業で習得する。乳幼児における健康問題の調査、保育現場での運動遊びや食育の保育方法の実践、乳幼児に対する健康教育方法、保護者に向けた情報共有方法など具体的な実践方法を学ぶ。		
評価方法 ※	授業内での課題70%、最終レポート30%		
評価基準			
テキスト	演習 保育内容 健康 河邊貴子 編著 建帛社		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	財政学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月-2
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義は、財政学の基本的な知識を習得し、わが国の政府活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。財政学の研究分野は、所得税や消費税などの租税、政府の借金である国債、年金や医療などの社会保障、道路や橋梁のような公共事業などと多岐にわたる。そのため、本講義では、多岐にわたる財政学の基礎理論を学んでいく。また、地方公務員試験等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験の過去問をとりあげながら、財政学の基礎理論を学んでいく。なお、この科目は卒業認定・学位授与方針うち、特に【経済学に関する専門知識・思考力・表現力】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>財政学に関する基礎力を身につけ、財政制度や機能・役割を理解できること。加えて、現実の政府活動を論理的な視点でみることができるようになること。現実の制度やルールを理解した上で、その制度（ルール）の含意を論理的に読みとり最適な行動をとることができるようになること。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス（講義の内容と進め方）と財政学Ⅰの復習[予習0時間、復習2時間] 第2回 市場経済と資源配分[予習0.5時間、復習3.5時間] 第3回 市場経済と政府介入①（政府による規制）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第4回 市場経済と政府介入②（租税政策）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第5回 外部性の理論①（負の外部性）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第6回 外部性の理論②（正の外部性）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第7回 外部性の理論③（外部性の解決方法）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第8回 公共財の理論[予習0.5時間、復習3.5時間] 第9回 租税の帰着①（租税の転嫁プロセス）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第10回 租税の帰着②（特殊な需要・供給曲線のケース）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第11回 租税の帰着③（ラムゼイルール）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第12回 所得分配の理論①（政府間補助金の理論など）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第13回 所得分配の理論②（公的扶助など）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第14回 租税の理論（所得課税と消費課税）[予習0.5時間、復習3.5時間] 第15回 わが国の財政と財政理論[予習0.5時間、復習5.5時間] ※講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合があります。</p>		
評価方法 ※	<p>・定期試験（持ち込み不可）の成績100%によって評価する。 ・講義で扱った問題については、講義内で問題解説をするなどのフィードバックを履修者に行う。</p>		

評価基準	
テキスト	特に指定しない。(資料を配布する)
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の詳細や教科書、予復習の方法については、初回ガイダンスにて説明を行う。 ・ミクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。 ・財政学Ⅰを履修していることが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	現代企業論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	月曜2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	301
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、現代企業、特に株式会社の経営に関する基本的な理論を取り上げ、事例とともに経済社会システムを概観し、経営の基本的枠組みを学んでいく。また、経営戦略、経営組織、リーダーシップ、マーケティングといった諸機能を現代企業の経営課題にいかに適合させていくべきかを学修する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業経営における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。（知識・理解） ・ 企業に関して調べる際の情報源や、そのアクセス方法などを活用することができる。（汎用的技能） ・ 企業経営について、社会人として求められる基礎的な知識と教養を身に着ける。（汎用的技能） 		
授業内容 授業形態 ※	<p>1 イントロダクション 講義概要、授業運営、成績評価などの説明</p> <p>2 起業：会社を1からつくった人の意識とは、どのようなものか？</p> <p>3 資金調達：企業がお金を集める手段</p> <p>4 企業に関する情報源</p> <p>5 日本を代表する大企業/目立ちにくい優良企業/地域を代表する企業</p> <p>6 コーポレート・ガバナンス</p> <p>7 今期の企業決算を読む</p> <p>8 ニッチプレイヤーという企業</p> <p>9 ビジネスモデル論</p> <p>10 イノベーション論</p> <p>11 企業におけるリスクマネジメント</p> <p>12 ダイバーシティ経営</p> <p>13 日本的経営とは、良いのか、ダメなのか？</p> <p>14 情報社会における企業経営</p> <p>15 授業の総合的なまとめと、理解度評価のための試験</p> <p>対面のみ (状況によってはオンラインのみとなる可能性もある)</p>		
評価方法 ※	<p>課題 簡潔な提出物を求めることがある。</p> <p>レポート 現代企業のかかえる問題に関するレポートを2回行う。</p> <p>平常試験 授業最終回に試験を行う。</p>		

評価基準	課題（10％）、レポート（50％）、平常試験（40％）
テキスト	教科書は使用せず、資料を配布する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「現代企業論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	コンピュータグラフィックス基礎	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	月曜2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	322
学修分野			
授業目的 ※	可視化技術やメディア産業などで使われるコンピュータグラフィックス技法の基本的な考え方および、生成手法と表現方法について講義を行う。また、2DCGおよび3DCGの概要を解説し、2DCGおよび3DCGの基本的な開発技術を学習する。CGは、Adobe FLASH (2DCG) およびPOV-Ray(3DCG)を用いて作成を行う。		
到達目標	メディア分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を学ぶ。(知識・理解) また、2DCGおよび3DCGの概要を理解し、基本的な2DCGおよび3DCGの作成技術を習得し、高度かつ専門的なICTの知識及び技術を身につける。(態度・志向性)		
授業内容 授業形態 ※	<p>01 ガイダンス、2DCGと3DCGの例と違い 初回ガイダンスのみ合同で実施する。</p> <p>02 (2DCG) 2DCGの画像情報と視覚表現</p> <p>03 (2DCG) 画面構成と黄金比・色彩・色と光の三原色</p> <p>04 (2DCG) 画像情報の扱い・画像の加工とデザイン</p> <p>05 (2DCG) 2DCGの設計と表現</p> <p>06 (2DCG) 様々な2DCGアニメーション表現</p> <p>07 (2DCG) アニメーションの設計と表現の基礎</p> <p>08 (2DCG) アニメーションの設計と表現の応用</p> <p>09 (3DCG) 3DCGの概要、POV-Rayの基本操作</p> <p>10 (3DCG) 座標系、シーンファイルの構成、基本図形</p> <p>11 (3DCG) 彩色、光源と陰影</p> <p>12 (3DCG) 座標変換(移動・回転・縮小拡大)</p> <p>13 (3DCG) マッピング、立体演算</p> <p>14 (3DCG) 作品制作</p> <p>15 (3DCG) 作品評価</p> <p>オンライン(Zoom)で実施します。 ZoomのURLについては本学シラバスをご確認ください。</p>		
評価方法 ※	課題 2DCG課題, 3DCG課題		

評価基準	課題 2DCG課題（50％）、3DCG課題（50％）
テキスト	松下孝太郎, 山本光, 柳川和徳, 鈴木一史, 星和磨, 羽入敏樹 共著 “POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作”, 講談社, 2017年, ISBN: 978-4-06-153827-6 (2,400円+税)
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎（Bbクラス）」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	社会学概論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	月曜2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	401
学修分野			
授業目的 ※	本講義は社会学の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。前半は、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。特に代表的な学説は、公務員試験他、社会学を受験科目としているような諸試験の基礎準備となる水準で講義する。後半は、具体的な社会問題の考察を行う。		
到達目標	現代社会理解のための基礎知識の構築 (知識・理解)		
授業内容 授業形態 ※	1.イントロダクション 2.社会学の萌芽 (コント・スペンサー) 3.初期社会学の学説1 (デュルケム) 4.初期社会学の学説2 (ウェーバー) 5.初期社会学の学説3 (ジンメル・テンニース) 6.社会的人間発達 (クーリー・ミード) 7.中間試験 8.シカゴ学派1 (トマス・パーク) 9.シカゴ学派2 (バージェス・ワース) 10.構造機能主義 (パーソンズ) 11.構造機能主義 (マートン) 12.現代社会論1 (家族論) 13.現代社会論2 (逸脱行為論) 14.現代社会論3 (大衆社会論) 15.まとめ 対面のみ		
評価方法 ※	小テスト 講義内容の理解度 平常試験 全体を通じた講義内容の理解度		
評価基準	小テスト (40%)、平常試験 (60%)		

テキスト	使用しない。
注意事項	他者の学ぶ権利を侵害したり、学ぶ環境を乱したりする者には厳しい態度で接する。私語や不真面目な受講態度のないことを望む。
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「社会学概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	障害インクルージョン論	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜 3限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	さくらホール
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2. 虐待の実態や差別の取り組みを学ぶ。 3. 地域共生社会や障害者文化芸術の新しい潮流を知る。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明、講師の自己紹介） 講義「君たちはどんな時代を生きていくのか、何を学ぶのか」（目標1）</p> <p>第2回 前回のリアクションペーパーの紹介 頭を柔らかくする小テスト①（障害児の世界を知る） 講義「障害者のリアルに迫る」（目標1）</p> <p>第3回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&A 頭を柔らかくするテスト② 講義「障害者虐待」（目標2）</p> <p>第4回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&A 頭をやわらかくするテスト③ 講義「あなたは虐待する？」（目標2）</p> <p>第5回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト④ 講義「虐待をしないためには何が必要か」（目標2）</p> <p>第6回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑤ 講義「行動障害と身体拘束」（目標2）</p> <p>第7回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑥ 講義「行動障害の改善」（目標2）</p>		

	<p>第8回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑦ 講義「利用者中心の支援」(目標1)</p> <p>第9回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「障害者が登場する映画やドラマ」(目標3)</p> <p>第10回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「警察プロジェクト」(目標3)</p> <p>第11回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標2)</p> <p>第12回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「発達障害と事件」(目標1, 2)</p> <p>第13回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「アール・ブリュット」(目標3)</p> <p>第14回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「意思決定支援」(目標1)</p> <p>第15回 地域共生型福祉と障害(目標3)</p>
評価方法 ※	期末レポート15%, 授業ごとのリアクションペーパー70%, 授業への取り組み15%, など。
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性を理解できたか。 2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを理解できたか。 3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知ることができたか。
テキスト	<p>書籍名 なぜ人は虐待するのか 著者名 野沢和弘 出版社 Sプランニング 価格 1,000円+税 ISBN・ISSN 978-4-90360-402-2</p>
注意事項	授業中の私語(おしゃべり)など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は履修しないでください。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	マーケティング論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月-3
キャンパス※		教室※	オンデマンド
学修分野			
授業目的 ※	<p>さまざまな製品・サービスがあふれる現代において重要なことは、単に商品を売るというだけではなく、顧客との良い関係性を構築し維持していくことだといえる。そのためには、マーケティングへの理解を深めていくことが求められる。また、企業は製品・サービスを生み出し、それを顧客へ届けるための一連のプロセスを検討している。良い製品を作り、適正な価格を定め、顧客へ届ける手段を考え、適切な情報を発信することで、顧客にとっての問題解決方法を提供している。この仕組みをデザインするマーケティングは企業の活動において欠かせない存在である。以上をふまえてこの授業では、企業と顧客をつなぐ重要な要素であるマーケティングに関する応用的な知識を学修していく。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【経営学に関する専門知識、思考力、学習目標1】に資する科目である。</p>		
到達目標	<p>マーケティングの応用的な知識を修得することができる。また、学んだ知識をどのように活用していくべきかを意識することで、論理的に考える力を身に付けていく。社会の変化を読み取ることで、時代に流れる機微を感じ取りながら、世の中の現象を理解する力を育むことを狙いとする。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 イントロダクション：授業のスケジュールや内容について 第2回 消費者行動の意義：消費者の思考システム 第3回 思い込みと偏見：日常に存在する思い込み 第4回 心理的な誘導：行動経済学とナッジ 第5回 学習と記憶：消費者の記憶について 第6回 自己概念と消費：自分らしい消費とは 第7回 ブランド・マーケティング①：ブランドの概念について 第8回 ブランド・マーケティング②：ブランドとマーケティングについて 第9回 ブランド・マーケティング③：強いブランドとは 第10回 サービス・マーケティング①：サービスの概念について 第11回 サービス・マーケティング②：サービス・マーケティング戦略について 第12回 経験価値マーケティング①：経験価値とは 第13回 経験価値マーケティング②：経験価値の活用について 第14回 価値共創とマーケティング：価値共創とは 第15回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングと社会の課題について</p>		

評価方法 ※	<p>期末試験（50％）、授業内の課題（30％）、平常点（20％）で評価する。期末試験、授業内の課題では、学修の成果を確認する。平常点は、授業への取り組みを評価する。これらを総合的に考慮し評価を行う。</p>
評価基準	
テキスト	<p>雨宮史卓編著[2022]『Next教科書シリーズ マーケティング論』弘文堂</p>
注意事項	<p>授業内では小論文形式の課題提出など、自分の考えを形にして表現する時間を設けるので、アウトプットを充実させるためにさまざまな事柄に関心を持ち、情報収集を心がける。</p> <p>配布資料と授業内容を合わせて自分なりのノート作成を行う。</p>
授業シラバス	<p>https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	経営学概論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	月曜3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	201
学修分野			
授業目的 ※	<p>経営学の基本的な理論フレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学の中心的な構成分野である経営戦略論と経営組織論における基本的な用語や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えながら解説を加えていく。また、情報社会における経営のあり方と、その理解に必要な着眼点や分析力も併せて説明する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営学における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。（知識・理解） ・ 企業経営に関する分析方法などの総合的な理解に基づいて、それを幅広い場面で活用しようとする姿勢を身につける。（総合的な学習経験と創造的思考力） ・ 情報社会の変化に対応するために、自律的に学ぶ姿勢を身につける。また、そのために常に高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習する姿勢を身につける。（総合的な学習経験と創造的思考力） 		
授業内容 授業形態 ※	<p>1 授業ガイダンス：学習のための情報源 2 経営学の内容（1）：企業経営・経営学の全体像 3 経営学の内容（2）：株式会社、雇用制度 4 経営戦略論：成長戦略（1）：多角化 5 経営戦略論：成長戦略（2）：国際化 6 経営戦略論：競争戦略（1）：コストリーダーシップ、差別化 7 経営戦略論：競争戦略（2）：集中化 8 経営組織論：組織構造（1）：職能別組織、事業部制組織 9 経営組織論：組織構造（2）：マトリックス組織、その他の組織構造 10 経営組織論：リーダーシップ 11 経営組織論：組織文化 12 経営組織論：モチベーション 13 情報社会における現代の企業経営（1）：情報技術の役割 14 情報社会における現代の企業経営（2）：情報技術と戦略 15 総合理解：これまでの授業内容のまとめと、理解度評価のための試験</p> <p>対面のみ ※状況によってはオンラインのみとなる可能性もある。</p>		

評価方法 ※	課題 簡潔な提出物を求めることがある。 レポート 企業に関するレポートを2回行う。 平常試験 授業最終回に試験を行う。
評価基準	課題（10%）、レポート（50%）、平常試験（40%）
テキスト	「1からの経営学（第3版）」 加護野忠男・吉村典久 碩学社 978-4502375217 本体2,400円
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「経営学概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	金融論入門B	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	月曜 5時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	203
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられる。		
授業目的 ※	この講義では、社会における貨幣の役割について基本事項を理解し、金融の意義と課題について学びます。「金融論入門B」は、株式市場、債券市場、バブル経済や社会保険制度について学びます。金融業界は、デジタル通貨の登場によって大きな変化を遂げようとしています。こうした現状も踏まえ、未来の銀行やオルタナティブな金融取引についても触れながら講義を進めていく予定です。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①株式市場について理解する。 ②債券市場について理解する。 ③バブルの発生と崩壊について理解する。 ④社会保険制度について理解する 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 イン트로ダクション：講義概要の説明</p> <p>第2回 2つの金融システム</p> <p>第3回 証券市場とは何か</p> <p>第4回 株式市場①：株式会社とは何か</p> <p>第5回 株式市場②：株価の決め方</p> <p>第6回 株式市場③：リスクとリスクヘッジ</p> <p>第7回 債券市場①：債券とは何か</p> <p>第8回 債券市場②：債券価格と利率</p> <p>第9回 債券市場③：社会貢献投資</p> <p>第10回 バブル経済①：金融恐慌の原因</p> <p>第11回 バブル経済②：金融恐慌の歴史</p> <p>第12回 バブル経済③：リーマンショック</p> <p>第13回 社会保険制度①：保険制度の基礎</p> <p>第14回 社会保険制度②：医療保険の仕組み</p> <p>第15回 社会保険制度②：年金保険の仕組み</p>		
評価方法 ※	テスト（60%）、レポート（20%）、授業への取り組みの能動性（20%）を考慮して評価		
評価基準			

テキスト	指定なし。資料を配布して講義を進める。
注意事項	1週間のうち120分の予習と120分の復習時間をとること。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=2030

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	危機管理論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	月曜5限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	12-101
学修分野			
授業目的 ※	危機管理の基本的な考え方を習得し、防災を中心としたさまざまな分野における実例や今日的な課題に関する理解を深め、危機管理における目標や対策を自ら検討し、主体的に取り組むことができる基礎的な素養を身につける。		
到達目標	1) 危機管理の意義や課題、何が大切かを理解している 2) 危機管理における目標や対策等を検討するいくつかの手法を習得する 3) 実生活の中で等身大の危機管理について考えることができる		
授業内容 授業形態 ※	<p>災害を中心とした危機管理の基本的な考え方を、人間（心理等）と環境の両面から学べるよう、社会における実例や課題、研究事例などを紹介する。また、危機管理を身近なものにとらえ、自ら対策を検討することができるよう、具体的な手法の体験学習（グループワーク等）を行う。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。</p> <p>【対面授業】 講義形式の授業が中心になるが、随時アクティブラーニングの手法を活用する。ワークシート等を取り入れるほか、グループワーク等を中心とした回も設ける。</p> <p>【遠隔授業】 配信授業動画等に対して、学生の意見や質問を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業（アクティブラーニング）とする。</p>		
評価方法 ※	講義への取り組み状況、事前事後学習、レポートにより総合的に評価する。		
評価基準	事前事後学習40点、授業内発表等20点、最終レポート40点の計100点満点。		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	授業中のグループワーク、ワークシートの作成等に主体的に取り組むこと。 事前事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	プログラミング入門	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	月曜5限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	203
学修分野			
授業目的 ※	Scratchはブロック形式でキャラクターを操作するプログラミング言語である。ブロックは「動き」「ペン」「演算」「音」など8種類の機能を持ち、プログラミングの初心者から無理なく学習できる。演習ではインタラクティブなストーリーを制作することやアルゴリズム学習をとおしてプログラミングについて学ぶ。繰り返しや条件判断、関数なども学習する。		
到達目標	プログラムの流れを理解する プログラムを作成できる アルゴリズムの基礎的考えを理解する（知識・理解） 情報社会の変化に対応でき、幅広く自律的に学ぶ姿勢を身に付ける（態度・志向性）		
授業内容 授業形態 ※	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとクラス分け、Scratchの機能紹介とスプライト制作 2. スプライトの移動 3. ピアノ演奏ソフト制作 4. 迷路ゲーム制作 : 基本 5. 迷路ゲーム制作 : 応用作 6. Catch the Fishゲーム : 変数を知る 7. 数当てゲーム : 判断文を知る 8. サイコロでデータ収集 : リストを知る 9. 図形作成 : 繰り返しを知る 10. 自分のブロックを作る : 関数を知る 11. ブロック崩しゲーム : 基本 12. ブロック崩しゲーム : 応用 13. 最大値と最小値を求める 14. データの並べ替え 15. 数値探索 <p>対面のみ</p>		
評価方法 ※	レポート レポート課題の提出物をもとに授業内容の理解度を評価する。 平常試験 到達目標であるプログラムの流れを理解し、プログラムを作成できたかを評価する。		

評価基準	レポート（40％）、平常試験（60％）
テキスト	なし。講義中に適宜、紹介する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「プログラミング入門（bクラス）」で検索

※は必須記入事項